

◇編集後記◇

今月号の掲載記事を拝見すると, J Occup Health (JOH) は, 全体で12報掲載のうち筆頭著者が日本人であるのは2報だけであった. その他の分についても, 東南アジア諸国からの投稿だけでなく, イラン, ベルギー, スペイン, 英国, 南米ベネズエラ, 南アフリカと世界中から, 内容も多岐にわたるものが寄せられている. JOH が産業保健分野の国際誌の一つとして定着し成長していくことは喜ばしいことである. 今後も数量, 内容ともに発展することが期待される.

一方, 和文誌は5報と数は少ないが, こちらも多様な内容が寄せられた. ガラス工の白内障はよく知られているが, ガラス製品製造時に発生するブルーライトによる網膜障害の有害性について報告され, また交代勤務看護師の疲労回復に関して, 休日の過ごし方として外出志向で, 仕事から心理的距離が十分にとれ, 適切な生活活動が, 疲労軽減に重要な要因であることが示唆された. ゴールデンウィークが過ぎましたが, 皆様も適度なりフレッシュで英気を養うことが出来たでしょうか.

職域に限定せず, 一般生活も含めたあらゆる方面から継続的に取り組んでいる東日本大震災特集には, 「口を開けると心も開く」と題して南三陸町での口腔ケアサ

ポートの活動記録が報告された. 誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアの必要性を含め, 被災地における一次予防の重要性を示している. 発災後2年が過ぎ被災地以外ではだんだんと報道される内容も限られ風化しつつあるところもある. しかし, 福島県内の放射線に対する対応を含め, 被災地においては保健医療福祉職が被災後の種々の業務に追われ, 一次予防を含めた本来の活動にリソースがさけない問題点も指摘されている. これまでにも報告されているように, 支援に入った際に受け入れ側が, 新たな労力や気苦労をしている点, 支援に入っても必要な情報が十分に残されないなどの問題点に, 十分に対応したことなども報告されている.

東日本大震災後の調査研究の在り方については科学者の責任の問題がクローズアップされ, 日本学術会議でも, 本年1月25日に「科学者の行動規範」が改定され声明として出された. あわせてこの声明では, 最近報道される機会が多いデータのねつ造や論文盗用といった研究活動における不正行為についても言及している. 一読いただき, 皆さんでより良い学会活動, 学会誌が作られればと思います.

(櫻田尚樹)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長: 笠島 茂 (三重大)

副委員長: 櫻田尚樹 (国立保健医療科学院), 杉森裕樹 (大東文化大), 高尾総司 (岡山大),
武林 亨 (慶應大), 玉腰暁子 (北海道大), 那須民江 (中部大), 西田和子 (久留米大),
平工雄介 (三重大), 藤野善久 (産業医大), 毛利一平 (三重大), 八谷 寛 (藤田保健衛生大)

編集委員: 石竹達也 (久留米大), 井上和男 (帝京大), 植嶋一宗 (津保健福祉事務所),
小笹晃太郎 (放射線影響研), 萱場一則 (埼玉県立大), 川口陽子 (東京医歯大), 熊谷信二 (産業医大),
黒沢洋一 (鳥取大), 近藤尚己 (東京大), 酒井一博 (労働科学研), 佐々木美奈子 (東京医療保健大),
菅沼成文 (高知大), 田中昭代 (九州大), 土井由利子 (国立保健医療科学院), 中尾睦宏 (帝京大),
中村裕之 (金沢大), 馬場園明 (九州大), 原田浩二 (京都大), 福島哲仁 (福島県立医大),
堀口兵剛 (秋田大), 丸山総一郎 (神戸親和女子大), 三木明子 (筑波大), 三宅達郎 (大阪歯大),
村田勝敬 (秋田大), 大和 浩 (産業医大), 吉田貴彦 (旭川医大), 渡邊博且 (産業医大)

客員編集委員: 梅津美香 (岐阜県立看護大), 田中紀子 (国立国際医療研究センター), 中田光紀 (産業医大),
東 尚弘 (東京大), 八幡勝也 (産業医大)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階
電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番